

林逸郎 はやし ひろし 辯護士。明治二十五年九月五日岡山縣御津郡横井村生れ、昭和四十年二月五日歿（八六—一九六五）。第一高等學校を経て、大正九年東京帝國大學法學部卒。辯護士登録後、法政大學教授兼務。血盟團、五・一五、神兵隊、大木教等著名事件の辯護を擔當。戦後は東京裁判での橋本欣五郎大佐を辯護。愛國法曹協会の理事等。第二東京辯護士會會長、日本辯護士連合會會長等歴任。

著書 『闘魂—東京裁判と橋本欣五郎』（昭和二十一年二月二十八日考現社）、『酒のそこのな』（昭和二十二年四月東都書房）、『BC級戦犯—真実はこうだ』（昭和二十五年七月十七日愛知・戦争犠牲者顕彰会）、『戦争はなぜ起きたか—徳富氏の官報供述書』（編、昭和二十五年七月十七日愛知・戦争犠牲者顕彰会「東京裁判研究」）、『敗者東条英機夫人他戦犯遺族の手記』（編著、昭和二十五年十月二十日一見書房）等。

